

下芝五反田遺跡・下芝萬行遺跡

2008

高崎市教育委員会

序

高崎市は平成18年の合併により約400平方キロメートルという広大な市域を有することとなりました。平野部から山岳地帯までの地形とそれに伴う自然環境、あるいは歴史的・文化的環境も実に多様な姿を見せております。遺跡・埋蔵文化財についても同様なことが言えます。人類の発生から現在に至るまでその生活・活動は自然と離れて存在することはできません。多様な自然条件は同時に遺跡の多様性も意味しています。

文化財保護行政も今後は新市域の多様な地理条件、自然条件、文化条件に十分に対応していくことが必要となっていくことと思われます。

本書は東京電力株式会社の高圧送電線鉄塔の建設工事に伴い発掘調査が行われた下芝五反田遺跡・萬行遺跡の発掘調査報告書です。安定した電力の供給は現代社会を維持するためには必要不可欠なものではありますが、祖先の残した遺跡を保護することも開発の時代に生きているわれわれの使命といえましょう。

最後に、発掘調査においてご協力、ご指導を受けました関係諸機関の方々、現地表下5mという困難な条件の中で仕事をしていただいた作業員の方々に深く御礼申し上げます。また、本書が斯学の発展に多少なりとも寄与できることを祈念し序の言葉といたします。

平成20年11月30日

高崎市教育委員会

教育長 中 島 雅 利

例言

- 1 本書は高圧送電鉄塔の建設工事に伴い平成18、19年度に実施した埋蔵文化財「下芝五反田・萬行遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地及び調査面積は以下のとおりである
下芝五反田遺跡 高崎市箕郷町五反田721-1外 635㎡
下芝萬行遺跡 高崎市箕郷町萬行747-4外 187㎡
- 3 本遺跡の発掘調査は工事主体者である株式会社東京電力の委託を受けて高崎市教育委員会が実施した。
調査組織
事務局 神戸聖語 斎藤寛方 須田奈保子
調査担当 飯島克巳 住田常生
- 4 本遺跡の発掘調査は平成19年2月13日～3月31日、4月17日～5月21日、11月20日～平成20年1月11日に行った。
- 5 本書の執筆・編集及び本書掲載の遺構・遺物の写真撮影は飯島克巳が行った。
- 6 本調査における基準点・水準点測量、遺構測量の一部を株式会社測研に委託した。また、遺物実測及びトレースの一部を有限会社毛野考古学研究所に委託した。
- 7 本事業に関わる記録、出土資料は高崎市教育委員会が保管している。

凡例

- 1 本書に掲載した地図は、平成14年5月1日 国土地理院発行地形図「下室田」1/25,000である。
- 2 挿図中に使用した方位記号は座標北を示している。座標値は国際座標を使用している。
- 3 遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものを使用した。
- 4 上層注記の及び遺物観察表の色調は農林省農林水産技術会議事務局、勸日本色彩研究所監修「標準土色帳」を使用した。
- 5 挿図の縮尺は以下を原則とするが、一部異なるものがあるためそのつどスケールまたは縮尺率を示した。
土坑・竪穴・遺物集積遺構の平面図、断面図、土層図 1/40
畝・溝・道路遺構 1/100
遺物実測図 1/3を原則とし小破片については1/2、須恵器の大型破片等は1/4で示したものもある。

目次

口絵

序

例言

凡例

目次

1 調査の経緯、方法と概要	1
2 遺跡の位置と環境	2
3 遺構と遺物	4
3-1 萬行遺跡	4
(1) 泥流層上面の遺構と遺物	4
(2) 泥流層	6
(3) 泥流層下の遺構と遺物	6
3-2 五反田遺跡	8
(1) 泥流層上面の遺構と遺物	8
(2) 泥流層中の遺構と遺物	14
(3) 泥流層下の遺構と遺物	14
遺物観察表	28
写真図版	32
発掘調査報告書抄録	38

挿図目次

第1図 周辺の地形と主な遺跡	3	第12図 F A下遺構全体図	17
第2図 萬行遺跡泥流層上面全体図	4	第13図 F A下南部島及び1号道路	18
第3図 泥流層上面の遺構と遺物	5	第14図 F A下北部島及び2号、3号道路	19
第4図 泥流層下の遺構と遺物	7	第15図 F A下黒色土面土器集積	21
第5図 五反田遺跡泥流層上面全体図	9	第16図 1号土器集積出土遺物	22
第6図 A区2号溝	10	第17図 2号、3号土器集積及び その他地点出土遺物	23
第7図 A区4号溝	11	第18図 その他地点出土遺物(2)及び 遺物分布図	24
第8図 泥流層上面の遺構と遺物	12	第19図 シルト面南部島	26
第9図 D区耕具痕詳細(部分)	13	第20図 シルト面北部島	27
第10図 泥流中間層1号、2号溝	15		
第11図 泥流中間層1号溝出土遺物	16		

1. 調査の経緯、方法と概要

下芝五反田遺跡・萬行遺跡の発掘調査は東京電力株式会社による西上武幹線新設工事（高圧送電線鉄塔2基の建設）に伴い行われた事前調査である。

平成18年9月東京電力より工事に伴う発掘調査についての協議があった。当該地に接してすでに調査が行われた遺跡が存在し、それらの遺跡が面的な広がりをもつことは当然予想されることであり、当該地に遺構が存在する可能性は極めて高いと考えられたため、記録保存のための発掘調査を行うこととなった。

調査は鉄塔敷地及び鉄塔建設に際しての補助工事が行われる部分で行うこととした。萬行遺跡では既存の高圧送電線鉄塔があり、その建設工事の際すでに旧箕郷町教育委員会によって発掘調査が行われていたが、今回建設する鉄塔は既存のものより大型になることや位置も若干南へずれるため、以前の調査区から外れる部分について調査を行うこととした。五反田遺跡については新設鉄塔であるため鉄塔敷地全面および補助工事が行われる部分を調査対象とした。

両遺跡とも周囲で行われた発掘調査によって泥流層の上下で遺構が確認されており、泥流層の厚みについてもある程度の予測が可能だったため、鉄塔の敷地部分においては泥流層下まで、五反田遺跡における補助工事部分については工事の影響が泥流下まで及ばないと判断されたため泥流層の上面までを調査対象とした。

現地表から平安時代以降の遺構が存在すると考えられる泥流層上面までの深さは、両遺跡とも1m前後と予想されたため特別な崩落防止等の措置は行わず発掘調査を行い、その後鋼製矢板による上留め工事により安全を確保したうえで泥流層の掘削を行い下層の調査を実施することとした。

泥流層上面までの調査は平成19年2月13日に萬行遺跡から開始した。表上掘削は重機を使用し、中間には文化層が認められなかったため泥流層上面の直上まで掘削し、その後人力で遺構確認を行った。しかし、以前の鉄塔工事の際の補助工事によるものと思われる攪乱が調査区の八割以上を占めており、わずかな調査可能範囲から検出された遺構は土坑3基と竪穴遺構1基のみであった。このため、当初は萬行遺跡上層調査終了後五反田遺跡上層の調査に入る予定であったが、萬行遺跡上層の調査にはさほどの日数を要しないと判断されたため継続して五反田遺跡の表土掘削を開始し、より面積の広い五反田遺跡の調査に主力を置き、工程を調整しながら萬行遺跡の調査を並行させた。

五反田遺跡上層では西暦1108年の浅間山の噴火によるB軽石（A s-B）層の残存が認められたのでこの直上までを重機で掘削しその後人力によって遺構確認を行うこととした。調査区は鉄塔敷地部分をA区、補助工事部分をB、C、D区とした。A区では調査区の南半部で泥流層の上面まで攪乱が達しており明瞭な遺構の検出はできなかったが、北半部ではA s-B層の残存状況もよく溝、耕具痕が発見された。B区は全面で攪乱が泥流層上面にまで及んでおり遺構は確認できなかった。C、D区にはA s-B層が残存しており、C区では土坑及び耕具痕が、D区では溝及び耕具痕が検出された。上層の調査は五反田遺跡、萬行遺跡とも平成19年3月31日に終了した。

下層の調査は萬行遺跡では矢板設置工事終了後平成19年4月17日よりを開始した。泥流層の掘削は大型の重機で調査区外から大まかに行った後、小型の重機をクレーンで調査区内に下ろすという方法をとった。

泥流層下においては複数の文化面が存在する可能性を考慮し、1mメッシュのグリッドを設定し土質を確認しながら掘り下げる方法をとった。遺構は調査区東部で浅間山C軽石（A s-C）を含む黒色土層面において畚の痕跡が検出できたが、文化面はこの一面のみであった。調査区西部は自然流路と思われる溝が北東-南西方向に走っていたが矢板崩落の危険があるため流路全体の調査は断念した。調査は5月21日に終了した。

五反田遺跡下層の調査は、直近を長野新幹線が通っているため振動や地盤変異に対して十分な対応が必要で

あった。このため東京電力と東日本旅客鉄道株式会社間での工法等の協議を行い、その結果をふまえたうえで矢板設置工事となったため、継続しての調査とはならず平成19年11月20日に開始することとなった。

調査対象としたのは前述のとおりA区のみである。萬行遺跡と同様に小型の重機を調査区へおろして泥流層の掘削を行った。泥流層の中間でわずかに黒色土が形成されている層が検出され、この面で溝が検出された。この溝の調査後さらに重機による掘削を行い良好な状態の榛名山二ツ岳洗川テフラ（FA）層を検出した。FA層上面から遺構は検出されなかったが、FA層直下の黒色土面からは畚、逆路、土器集積などが検出された。それらの遺構の調査後さらに黒色土面にトレンチを設定し下層の確認を行ったところ黒色土層下のシルト面からも畚の痕跡が検出されたため面として広げ調査を行った。

なお、五反田遺跡ではFA面以下で湧水が激しかったため、やむをえず調査区周囲に排水用の溝を掘り、さらに地盤のもっとも低い部分に集水用の穴を穿たうえて常時排水ポンプを稼働しながらの調査となった。また、調査面へ降りるための足場部分については調査を断念した。調査は平成20年1月11日に終了した。

2. 遺跡の位置と環境

高崎市は平成18年の市町村合併によって標高約60mの沖積平野部から上信国境に位置する標高1655mの鼻曲山を最高地点とする山岳部まで極めて多様な地理条件をその市内に含むこととなった。

箕郷町地域は北西から南東に長く連なる市域の中央東部に位置し、地形としては榛名山の東南斜面から山麓部の緩傾斜部をその範囲とする。

下芝地区は箕郷町地域の最南部、山麓緩傾斜部に位置し、東に東南流する井野川と西に南流する榛名白川とに挟まれた区域である。

現在の下芝地区の地形は5世紀末から6世紀代と考えられる榛名山二ツ岳の二度の噴火に伴う泥流によって形成されたものである。この泥流は箕郷町西明屋付近を扇頂とし、榛名白川と井野川との間に展開する小規模な扇状地「白川扇状地」を形成している。現在の比較的平坦な地形はこの泥流により微高地や谷地形が覆われたことによって形成されたものである。下芝五反田遺跡・萬行遺跡はこの「白川扇状地」内に位置し、「白川扇状地」を形成した泥流の上面とその下に遺構が存在する。

付近の遺跡としては萬行遺跡の東にほぼ接して下芝谷ツ古墳がある。この古墳は泥流によって埋没していたため良好な状態で墳丘が残存していた一辺約20mの方墳である。堅穴式石室からは金銅製飾屋、馬具、甲冑等が出土している。五反田遺跡の周囲には北陸新幹線工事に伴い群馬県埋蔵文化財調査事業団によって発掘調査が行われた「五反田遺跡」及び天神遺跡があり、さらには旧箕郷町教育委員会によって調査された「五反田遺跡」もこれらに接して所在する。群馬県埋蔵文化財調査事業団調査の五反田遺跡の泥流上面では、主に平安時代の住居址が、泥流下では住居址と畚とが、天神遺跡では泥流上面で水田址、住居址、溝等が、泥流下では畚、住居址、祭祀の場と考えられる器物集積遺構が発見されている。

南には五反田遺跡や天神遺跡と同様に北陸新幹線建設工事に伴い調査が行われた行方巻名社遺跡や浜川遺跡群（浜川長町遺跡、浜川高出遺跡、浜川館遺跡）、御布呂遺跡等が存在する。これらの遺跡においても泥流層の上下で遺構が検出されている。

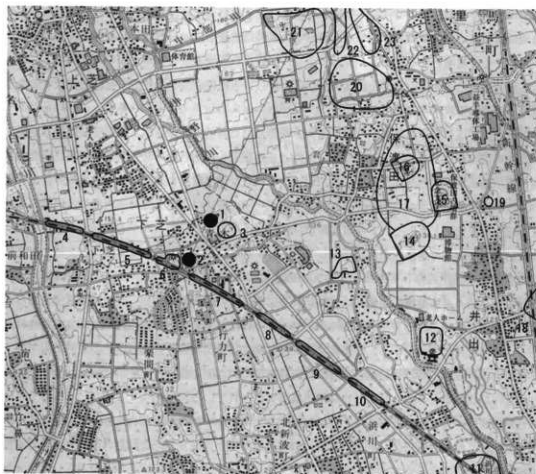
北西には榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地上に、ほ場整備事業に伴い発掘調査が行われた生原善龍寺前遺跡、海行A遺跡、海行B遺跡、保渡出荒神前遺跡等があり、縄文時代中期から断続的にはあるが中世に至るまでの遺構が発見されている。

本遺跡から東へ1kmほどの井野川左岸には、井出二子山、保渡田八幡塚、保渡田薬師塚の連続して営まれた

と考えられる三基の大型前方後円墳を中心とする保渡田古墳群がある。さらにその南東約1kmには古墳時代の首長居館跡と考えられている三ツ寺I遺跡が存在しており、この付近が古墳時代の5世紀後半から6世紀初頭の地域社会において重要な位置を占めていたことが推察される。

引用参考文献

- 「二子山古墳」群馬町教育委員会1985
- 「生原・青龍寺前遺跡」箕郷町教育委員会1986
- 「海行A・B遺跡」箕郷町教育委員会1988
- 「三ツ寺I遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団1988
- 「道場遺跡群」高崎市教育委員会1989
- 「保渡田荒前遺跡・血掛遺跡」群馬町教育委員会1989
- 「行力寺名社遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団1994
- 「下芝天神遺跡・下芝上田屋遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
- 「芦田貝戸遺跡 御布呂遺跡 餅井貝戸遺跡 西下片出遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
- 「浜川遺跡群」群馬県埋蔵文化財調査事業団1998
- 「下芝五反田遺跡 一奈良平安時代以降編一」群馬県埋蔵文化財調査事業団1999
- 「下芝五反田遺跡 一古墳時代編一」群馬県埋蔵文化財調査事業団1999
- 「保渡田八幡塚古墳」群馬町教育委員会2000



- 1. 下芝萬行遺跡 2. 下芝五反田遺跡 3. 下芝谷津遺跡 4. 下芝上田屋遺跡 5. 下芝天神遺跡 6. 下芝五反田遺跡 (群馬県埋蔵文化財調査事業団調査)
- 7. 行力寺名社遺跡 8. 浜川長町遺跡 9. 浜川高田遺跡 10. 浜川館遺跡 11. 御布呂遺跡 12. 同遺跡 13. 谷津遺跡 14. 井出二子山古墳 15. 保渡田八幡塚古墳 16. 保渡田薬師塚古墳 17. 保渡田VII遺跡 18. 三ツ寺I遺跡 19. 上井出遺跡 20. 保渡田荒前遺跡 21. 生原青龍寺前遺跡 22. 海行B遺跡 23. 海行A遺跡

第1図 周辺の地形と主な遺跡

3. 遺構と遺物

3-1 萬行遺跡

(1) 泥流層上面の遺構と遺物

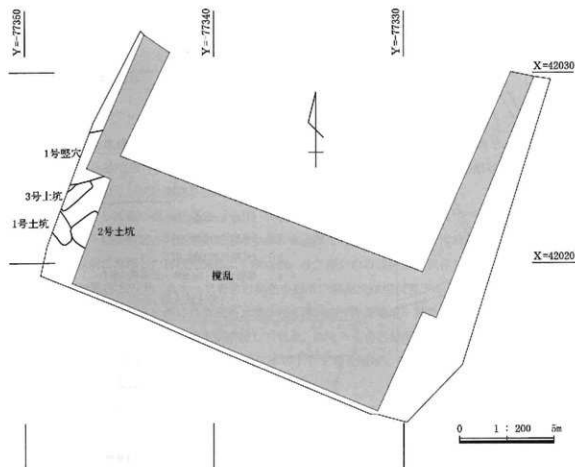
萬行遺跡の現地表面は20cmの厚さで舗装されており、この面の標高は約146m前後である。この下には舗装前の耕作土と思われるA s - Bを含む褐色土と、同様にA s - Bを含む暗褐色土がそれぞれ20cmほどの厚さで、鉄分の沈着でやや色調が異なるが上層とほぼ同様な組成の層が10cmほどの厚さで堆積していたがこれらの面では遺構は確認できなかった。また、A s - B層も確認できなかった。泥流層の上面は標高約145.7m前後で、現地表下約70cmで検出された。遺構はすべて泥流層上面に掘り込まれた状態で検出されたものである。

1号竪穴

計測可能な部分での南北幅2.4m、西側は調査区外、東側は攪乱により消滅。泥流層上面からの掘り込みの深さは約20cm。住居の可能性もあるが、床面は硬化していなかった。遺物は覆土中より羽釜破片が一片発見された。

1号土坑

長軸方向は北西-南東。北西部は調査区外となる。幅は1m。掘り込みの深さは70cm。2号土坑と切り合うが、覆土に差がなく先後関係は確定できなかった。



第2図 萬行遺跡泥流層上面全体図



第3図 泥流層上面の遺構と遺物

2号土坑

南西—北東方向の長さ2m。南東部は攪乱により消滅。掘り込みの深さ80cm。

3号土坑

長軸方向南西—北東。205cm×75cmの長方形平面である。掘り込みの深さは12cm。1号竪穴を切る。

各土坑とも覆土中より数点の土器の小破片が出土しているが、覆土は分層できず、短期間に埋まったものと思われる。時期や用途は不明である。

(2) 泥流層

泥流層上面の標高は調査区西部で145.7m、泥流直下の黒色土の標高は約141.5m。泥流は約4.2mの厚さで堆積していた。

泥流層断面を観察すると、上面から35cm程が角閃石安山岩の小礫を含む黄褐色の火山灰質土であり、この下に2cmの厚さで黒色土が堆積していた。黒色土より下位の層は砂層または礫層・砂礫層であり、大まかな観察でも8層が認識でき、複数回にわたり泥流の流下があったことを窺わせる。礫層中には長さ1mを超える巨大な石も含まれており、泥流の流下の激しさをうかがわせる。

最下部の鉄分が沈着して橙色を帯びる礫層の下は4世紀初頭に降下したとされる浅間山C軽石（As-C）を多量に含む黒色土層で、古墳時代5世紀末から6世紀初頭と考えられる二ツ岳の最初の噴火による火山灰層（FA層）は確認できなかった。なお、泥流層は重機によって掘削し、崩落の危険性もあったため十分な観察が行えたとは言えないが、層中に遺構・遺物を確認することはできなかった。

(3) 泥流層下の遺構と遺物

畠

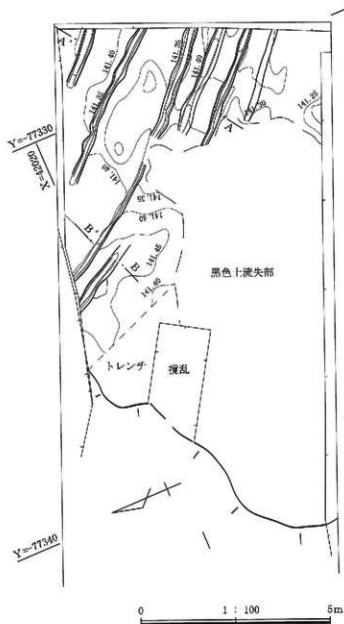
泥流層下では調査区の北東部分、As-Cを含む黒色土が分布する範囲で畠の痕跡と考えられる遺構が発見された。検出された遺構はAs-Cを含む黒色土面に掘り込まれた幅20cm程の数条の溝で、北西—南東の走向を示していた。比較的残存状態のよい南側2条で見ると溝の中心から中心までの距離は70cmであった。溝の覆土中にFAがブロック状に確認された。

この遺構は畠立をした畠の窪んだ部分（サク）の痕跡と考えられる。覆土にFAがブロック状に認められることから、FA降下以後耕起されたものであろうが、本遺跡ではFA層は面的には検出されておらず、FA層を含む泥流直下以前に堆積した層は泥流により削られ、サク部分のみ痕跡的に残存したものと考えられる。

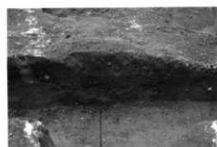
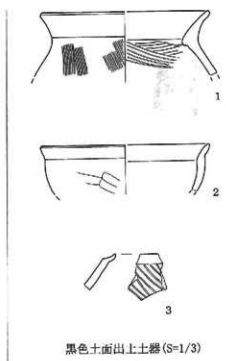
As-Cを含む黒色土の下、As-Cを含む黒色土がない部分では泥流直下から30～40cmの厚さで灰白色のシルト層が堆積しており、一部に自然流路と思われる溝があったが遺構・遺物ともに発見できなかった。シルト層の下には極めて粘性の強い黒色土が堆積しており、As-Cを含む黒色土堆積以前この付近は谷地形内にあったものと考えられる。なお、念のために二本のトレンチを設定してシルト層下の黒色土上面から50cmほど掘り下げてみたが遺構・遺物ともに発見できなかった。

遺物

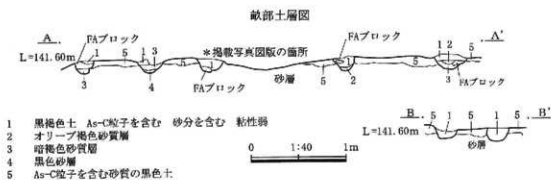
泥流層下では、As-C混じりの黒色土が残存していた部分にのみ、特に集中するような範囲もなく疎らに土器片が出土した。



泥流層下全体図 (畠面)



FAブロック
泥流層下断面部分



第4図 泥流層下の遺構と遺物

3-2 五反田遺跡

(1) 泥流層上面の遺構と遺物

五反田遺跡の泥流層上面はD区北部で標高約143.3m、A区の攪乱が及んでいない範囲で標高約142.8m、現地表下約60cmで検出された。萬行遺跡と同様にAs-Bを含む耕作土、若干色調の異なる同様な組成の層の順で堆積していたが、泥流層上面はAs-Bで覆われていた。

なお、B区は全面泥流層上面まで攪乱及んでおり遺構は確認できなかった。

A区

南半部は近年の造成によると思われる攪乱が泥流層上面にまで及んでおり、掘り込みの深い4号溝及び近年のものと判断される1、3号溝以外は検出されなかった。

1号溝・3号溝

1号溝は調査区南端を、3号溝は調査区のほぼ中央を東西に走る。当初水路と判断して調査を行ったが、溝底は凹凸が激しく覆土もしまりが弱く明瞭な層を示さないことから水路等とは考えにくく、1号溝に関しては西端が垂直に立ち上がっていた。また、両者の位置が最近の地割区分とはほぼ一致しており、近年の土地利用によるものと考えられるため図示しなかった。

2号溝

調査区東部を南北に走っておりB軽石を主体とする層に掘り込まれていた。幅は残存状態のよいところで約60cm、確認面からの深さ約10cm。北部は調査区外に続き南部は攪乱により消失している。検出された全長は13.4mであった。約6m離れた土層断面A-A'とB-B'間での溝底レベルで約22cmの高低差があり、北から南へ地形に沿った水路であったと考えられる。なお、この溝をはずした下に耕具痕が残存しており耕具痕が印せられた時期より新しい時期のものと判断できる。

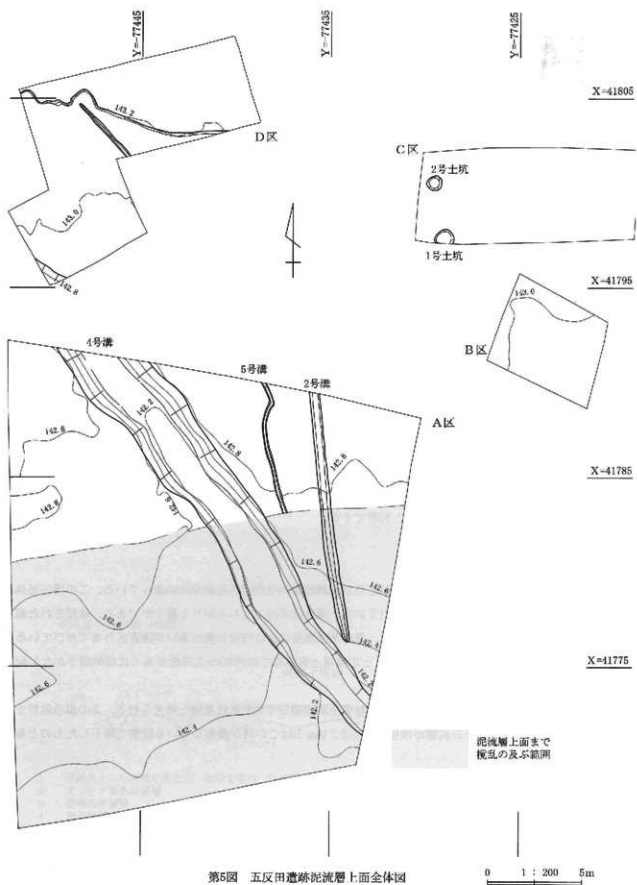
4号溝

泥流上層の黄褐色火山灰質層に掘り込まれており、調査区の北西から南東方向に走っている。この溝の延長と思われる部分はD区の南西隅でも検出されている。溝底は平坦で立ち上がりも緩やかである。確認された範囲での幅は最大で3.8m、深さ0.7mであった。東南部は攪乱により残存状態が悪いが調査区外まで伸びているのは確実である。A区内のみで高低差を見ると北西端と東南端では約20cm北西部が高く比較的緩やかな勾配である。

溝底には1～2mm程度のきわめて薄い黒色の粘質土が堆積しており水性堆積と考えられる。この黒色粘質土上に約20cmの厚さでAs-Bの純層が堆積していた。As-Bはこの溝が機能している段階で降下したものと考えられる。

5号溝

調査区やや東より小さな屈曲が一部にあるがほぼ東西に走っている。D区にも形状、方向からその延長と判断される部分が検出されており、平面上で認識する限りはこのD区部分が溝の上端部となる。南端は攪乱により不明瞭となって消失している。上端から消失部分までの距離は約25mである。D区での上端部とA区



第5図 五反田遺跡泥流層上面全体図

消失部との高低差は約40cm、幅は広い部分で約25cm、掘り込みの深さは約15cmで、U字状の断面形状である。覆土はA s-Bを主体とするものであるが一次堆積の状態ではなく後述する耕具痕と同様に一度動かされたものと考えられる。土層断面では確認できなかったが、A s-B降下後に掘削されたものと考えられる。

以上のほか、A区では調査区北半部に耕具痕がほぼ全面に検出されている。

C区

1号土坑

上端直径95cm、深さ60cmの円形平面で、底部は平らで直径は約70cmである。土層断面よりA s-B降下後に掘削され、短時間で埋まったものと判断される。

2号土坑

掘削の激しい箇所から発見されたため上層の十分な観察はできなかったが、覆土はA s-Bを主体とするもので、A s-B降下後に掘削されたものと判断される。平面形は円形で直径75cm、深さは泥流層上面から約20cmであった。

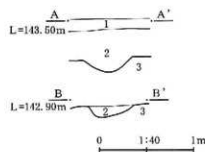
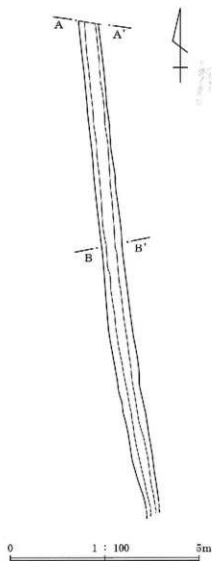
このほか、残存状態は良好ではないが耕具痕がほぼ全面に検出されている。

D区

A区で検出された4号溝、5号溝の延長と考えられる部分および、耕具痕が検出されている。また、不定形な曲折をもつ北西-南東方向の段差がありA s-B降下以前の土地利用によるものとも考えられるが性格は不明である。

耕具痕

B区を除く各調査区において、A s-B層下、泥流層上面に耕具による耕起の痕跡が刻まれていた。平面形状は半月形で、半月の弦にあたる部分は地表面に対して急角度となり、弧の部分は浅い角度となっている。残存状態のよいものでは幅は20cm前後のものが多く、深さは10cm前後であった。耕具痕を充填している覆土はA s-Bであるが、降下ユニットが認められず、純層であれば最下層に見られ

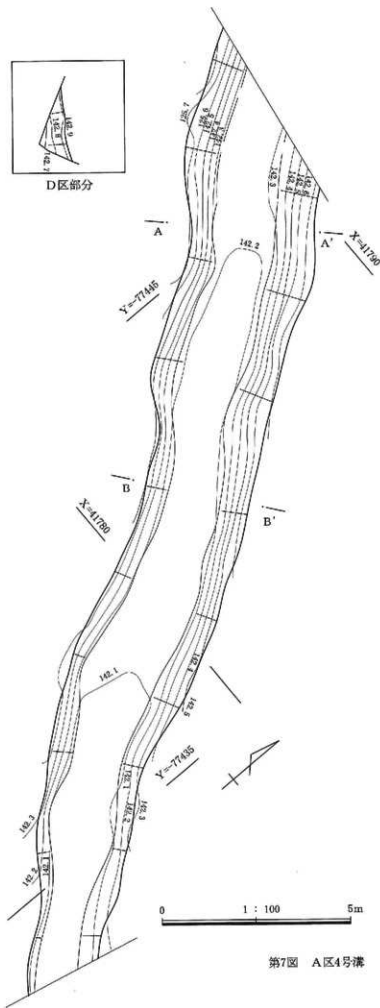


- 1 黒褐色土 現耕作土
- 2 黒褐色土 若干のAs-B粒とAs-Aと思われる軽石粒を含む
- 3 As-Bを主体とする黒色土

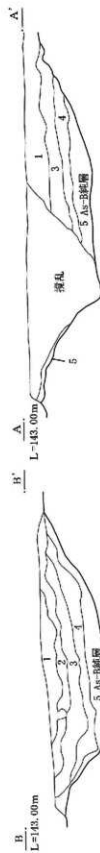
第6図 A区2号溝



D区部分

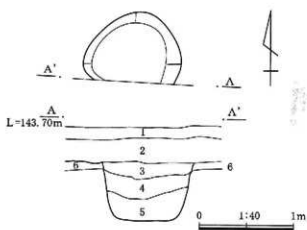
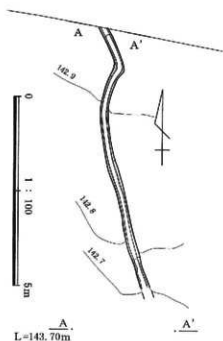
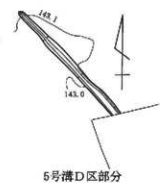


第7図 A区4号溝



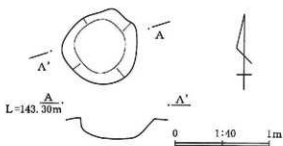
- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 黒褐色土
- 4 黒褐色土
- 5 黒褐色土

0 1:40 1m



- 1 黒褐色土 現耕作土
- 2 黒褐色土 As-B粒子を多量に含む 径1cm程度の軽石粒を含む
- 3 黒褐色土 As-B粒子を多量に含む 黄色火山灰質土のブロックを含む
- 4 黒褐色土 As-Bの暗紫色火山灰ブロック及びAs-B粒子を多量に含む 若干の黄色火山灰質土のブロックを含む
- 5 黒色土 As-Bの暗紫色火山灰ブロック及びAs-B粒子を多量に含む
- 6 黒褐色土 B軽石を主体とする層

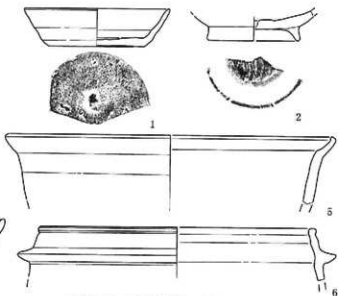
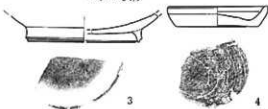
C区1号土坑



C区2号土坑

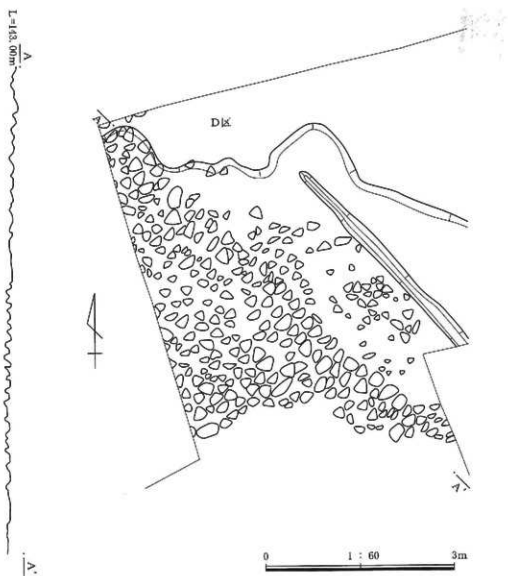
- 1 黒褐色土 現耕作土
- 2 黒褐色土 As-B粒子を多量に含む 軽石粒を若干含む
- 3 As-Bを主体とする黒色土
- 4 As-B純層
- 5 礫成覆土 As-B主体だが一次堆積の状態ではない
- 6 As-B粒子を主体とする砂粒層 黄色火山灰質土のブロックを含む

A区5号溝

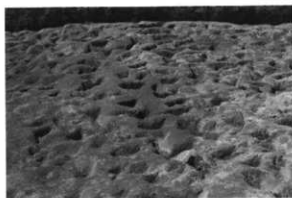


泥流層上面出土遺物 (S-1/3)

第8図 泥流上面の遺構と遺物



第9図 D区耕具痕詳細（部分）



A区耕具痕



D区耕具痕

る青灰色の火山灰が分断されブロック状に含まれており、A s - Bの降下したままの一次的な状態ではなく攪乱された状態のものと判断される。このことより耕具が打ち込まれた面はA s - B層上面以上の位置からと判断できる。また、A s - B層全体がこの耕起行為により攪乱された状態になったものと考えられる。

なお、D区においては、耕具痕が疎らな帯状の部分が存在する。この部分の東側に5号溝の延長部、西側に直線を意識したかと思われる連続した耕具痕があり、通路もしくは畦などの通常は耕起の行われない施設の存在を窺わせる。

遺物

各遺構とも覆土から発見されたもののみで遺構の時期を示すような状態で発見されたものはなかった。

(2) 泥流層中の遺構と遺物

泥流層上面より約1m下、わずかに黒色土が形成された標高約141.7m前後の泥流層中より溝が検出された。

1号溝・2号溝及び氾濫面

1号溝は調査区北西方向から南東方向に向かう。北半部の残存状況の良好な場所で幅約1.5m～2.7m、深さ約20～30cm。流れによるためか肩部も溝底も凹凸が激しく、径3cm以下の礫を含む砂礫層で覆われていた。

覆土中より縄文土器、埴輪、須恵器、土師器片が出土しているが、いずれも表面が磨耗したものが多く、上流に存在した遺跡に由来するものであろう。

2号溝は北半部で泥流層上面の4号溝と位置が重なる。幅は約1m、深さ80cmほどであるが側面と底面は流れにより抉られたような状態を示している。特に側壁はオーバーハングしている状態であった。覆土は径10cm程度の礫を多量に含む砂礫層であった。

1号溝、2号溝の交差する付近から南側は急激に砂礫層の堆積範囲が拡大し氾濫したような状態を示しており1号溝西側の肩部の一部以外は溝としての分離は不可能であった。

遺物

遺物は主に1号溝覆土中より出土しているが、いずれも破片であった。

(3) 泥流層下の遺構と遺物

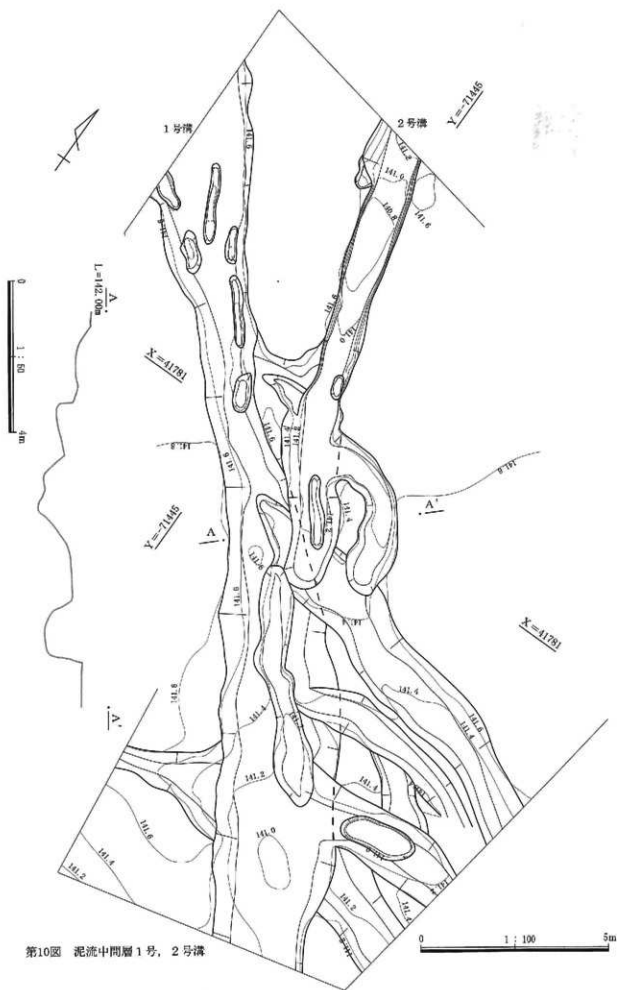
現地表下約4m、標高139.7m前後の泥流層下にF Aの純層が堆積しており、これを剥がすことによってF A降下直前の黒色土面が検出された。

黒色土面の地形は、調査区中央部を幅6mほどの低地が東西に走っており、その両側に微高地が形成されていた。この微高地上に畝、道路が検出され、微高地から低地へ下る斜面の下部に土器集積が、低地部の最下部付近で炭化材集積（焚き火跡）が検出された。

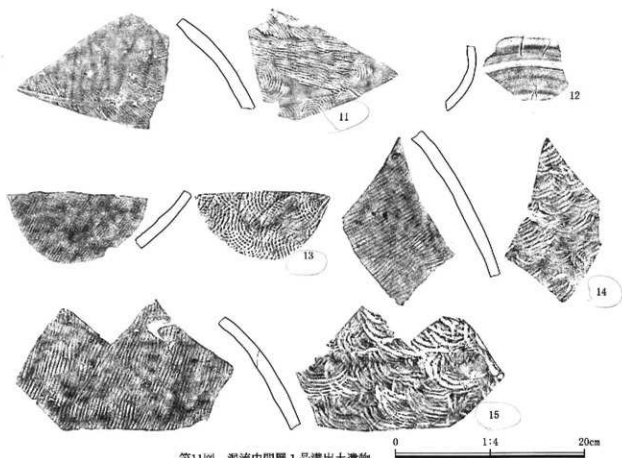
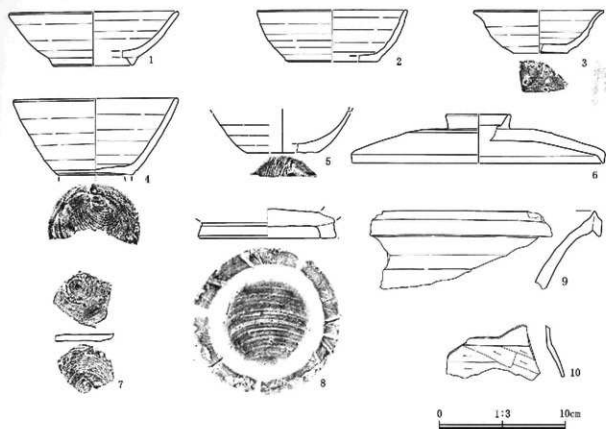
黒色土は微高地部で10cm程度の厚さしかなく、その下は灰白色のシルト層となっておりこの面からも畝の痕跡が検出された。なお、低地部の黒色土下は礫層となっており遺構は検出されなかった。

F A下畝

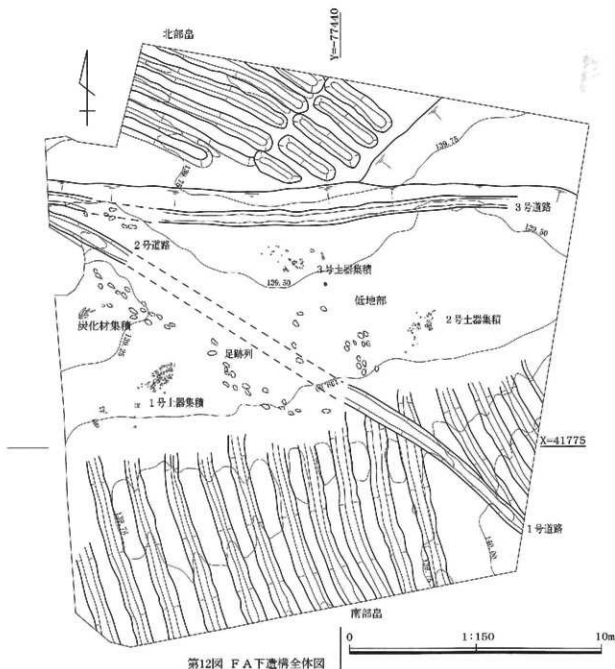
F Aに覆われていた黒色上面では調査区中央部に東西方向に伸びる低地帯がありその両側の微高地上に畝が検出された。



第10圖 泥流中間層1号, 2号溝



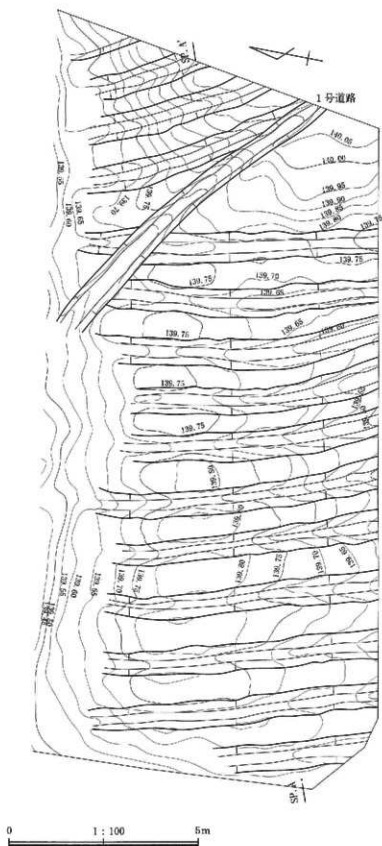
第11图 泥流中间层1号溝出土遺物



第12図 F A 下遺構全体図

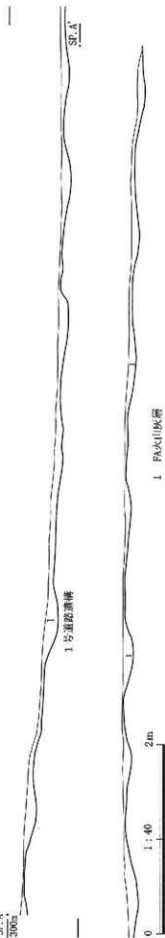
調査区南部に検出された畠のウネはほぼ北西—南南東の走行をとっているが、後述の道路遺構の左右で角度を変えており、等高線にほぼ直行するような配列となっている。南は調査区外となり北は低地部に落ち込む斜面手前でウネとサクの境が不明瞭となっている。ウネ間の距離は1.5m前後のものが多く、サク最下部とウネ頂部との高低差は10cm前後でなだらかな起伏であった。

調査区北部の畠は西北西—東南東の走行を示し、東端より3mほどの位置でウネとサクの位置が入れ替わっていた。サクの中心間の距離はほぼ1m前後で、サク最下部とウネ頂部との高低差は10～20cmの範囲であった。南部で検出された畠に比べるとウネの間隔が狭いこともあるのだろうがウネ頂部の丸み及びサクの粗みがより明瞭であった。畠の周囲には土上状の盛り上がりがあり、畠を区画していたものと考えられる。



第13図 FA下南部畠及び1号道路

SP. A
L-140.300m



道路

道路遺構は3箇所を確認できた。いずれも島のサクと同様に浅い溝状でF Aに覆われており、表面は硬化していた。1号道路遺構は中央の低地部の北側、調査区南東部で検出された。南東-北西方向に走っており調査区中央の低地部へ落ち込む斜面手前で窠みが不明瞭となる。2号道路遺構は中央低地部の北側、調査区北西部で検出され、南東-北西方向に走っておりやはり中央低地部へ落ち込む斜面手前で窠みが不明瞭となる。

1号、2号道路遺構はその走行方向から同一延長上のものと考えられる。中央の低地部における推定延長部の両側には足跡と考えられる窠みが集中し、延長部上には帯状に足跡の窠みが存在しない部分があることから、調査で痕跡は発見できなかったが低地部を横断する部分には板などを敷いていた可能性がある。

3号道路遺構は北部の島の南縁と中央低地部斜面との間に低地部に並行して走っており、東部の緩やかな傾斜面上で窠みが不明瞭となる。

土器集積

中央の低地部へ落ち込む斜面上に土器の集積箇所が3箇所確認された。いずれも堅穴等の遺構は伴わず地面に直接土器を置いたと思われる状態で発見された。

1号土器集積

土器の個体数が最も多いのは1号土器集積で、特に土器の集中しているのはおよそ1.5m×1mの範囲である。土器は坏・高坏を主体に25個体以上出土し、第16図の2と10や3と4の坏は重なった状態で出土している。坏・高坏以外に埴、壺、小型甕も出土している。なお、この集中部分からやや離れた位置で出土した土器もあるが、発見された土器の全体の分布状況よりこの1号土器集積に含めて図示した。

また、微細遺物の検出のため土器集積部の下及び周囲の土を採取して水洗選別したところモモの種子が1個体発見された。

2号土器集積

2号土器集積はやや散漫な分布ではあるが、約1.3m×0.8mの範囲でやや密度の高い分布を示す。出土土器は坏及び高坏で、第17図の1、3、4の坏は重ねられた状態で出土した。

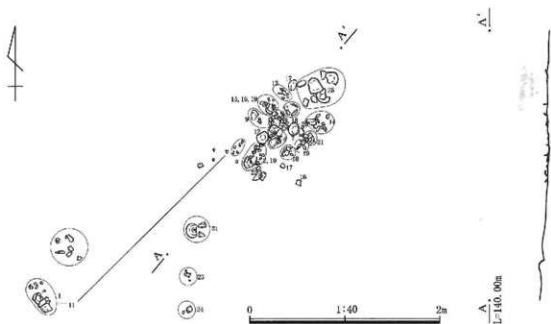
3号土器集積

3号土器集積は、ほぼ3m×1.3mの広がり土器が互いに重なることはなく散漫な状態で分布していた。また、出土土器の器種も埴、鉢、高坏と1、2号土器集積とは異なる様相を示している。

これらの土器集積遺構は島と同様にF Aに直接覆われており、埋没したのは島と同時に判断できる。

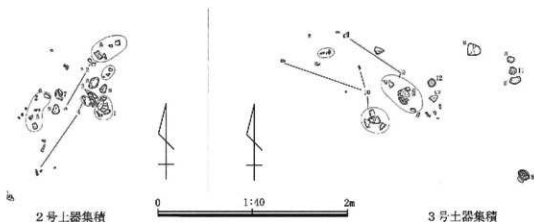
このほかに土器集積遺構とは性格を異にする焚き火をしたかと思われるような炭化材の集積した箇所が検出された。しかし若干の灰が材の下に認められたのみで焼土は認められず、長時間この場所で火を焚いたような状態ではなかった。この炭化材集積に接するように底部が焼成後穿孔された須恵器の甕が単独で置かれており、炭化材集積とあわせてひとつの遺構を構成するものと思われる。

これらの土器集積以外にも黒色土面及び黒色土中より調査区全体から散漫ではあるが土器が出土している。多くは小破片であったが、中には接合によりほぼ完形となるものもあった。ただし出土状態は島に突き込まれ



遺物分布平面図に付した番号は第16図の遺物番号と一致する

1号土器集積



2号土器集積

3号土器集積

2, 3号土器集積及び炭化材集積部の遺物平面分布図に付した番号は第17図の遺物番号と一致する。

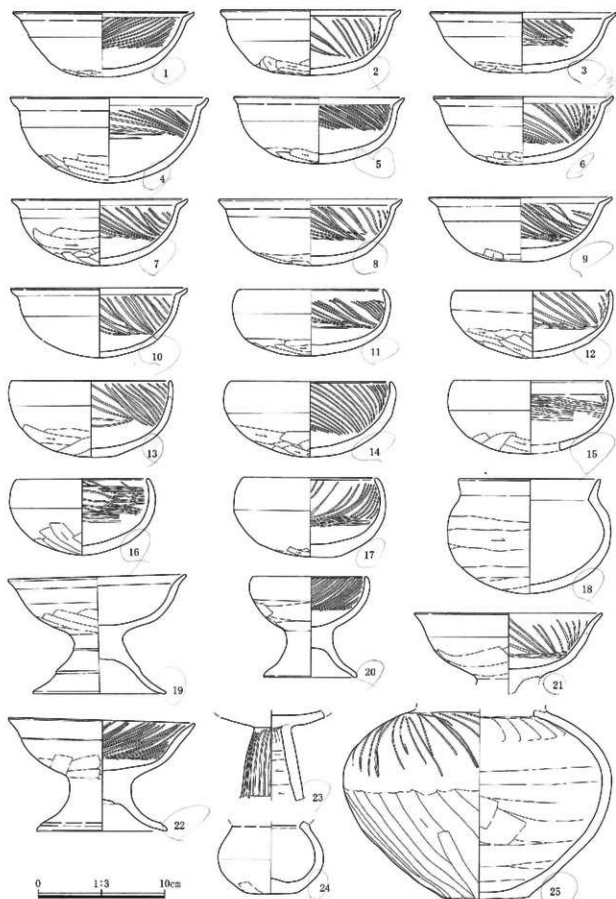


炭化材集積及び須恵器

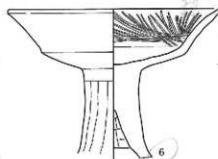
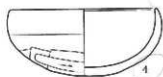


1号土器集積内出土の種の

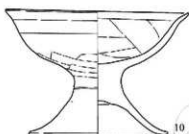
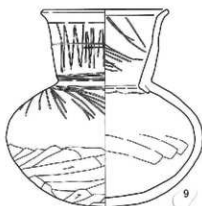
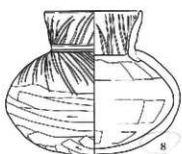
第15図 F A下黒色土土器集積



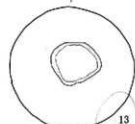
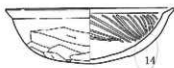
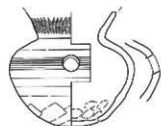
第16图 1号土器集積出土遺物



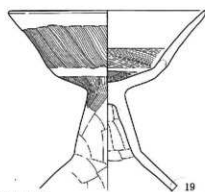
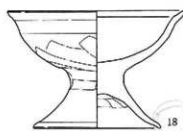
2号土器集積出土遺物 (1~7)



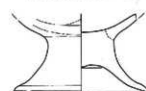
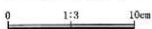
3号土器集積出土遺物 (8~12)



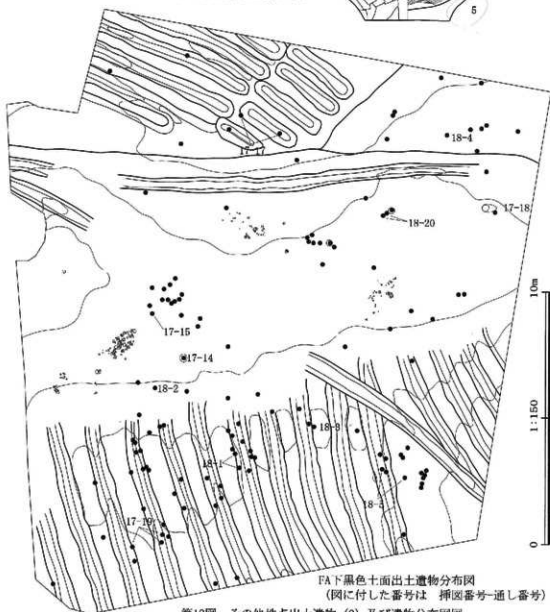
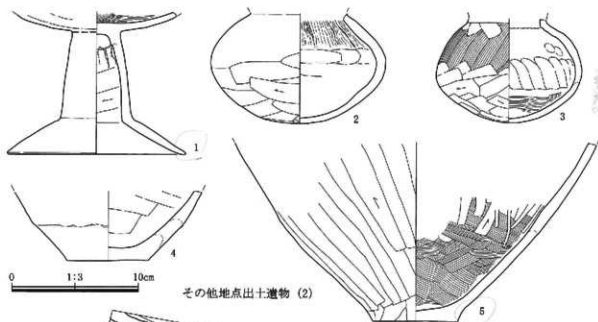
炭化材集積部出土遺物



その他地点出土遺物 (13~20)



20 第17図 2号, 3号土器集積及びその他地点出土遺物



たような状態であり土器集積とは性格が異なると思われる。なお、1号土器集積の北東と3号土器集積の南東には比較的集中して土器片が出土している範囲があるが、これらも接合しないものが多く土器集積と同一に扱うことはできないと思われる。

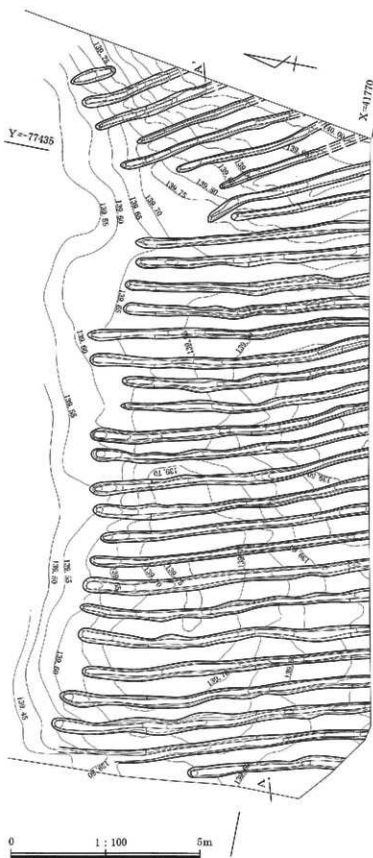
シルト面品

黒色土層下のシルト面からも畠の痕跡が検出された。灰白色シルト面上層の黒色土をわずかに混入する幅20cmほどの溝状で確認された。

低地南側のサクの走行方向は黒色土面の畠と同方向であったが、サクの間隔は黒色土面のものより狭く50cmから90cmの範囲であった。この畠も道路状遺構を境に走行を変えており、この畠が耕作された段階すでに道路が存在したものと考えられる。

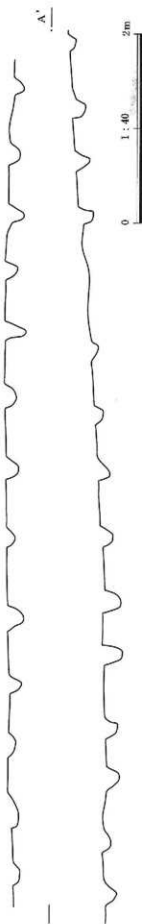
低地部北側の畠は残存状況が良好ではなく、部分的に途切れているものもあったが、黒色土面の畠と同方向の走向のものと、それに直角に近く交差する走向のものとが認められた。この先後関係については覆土の平面観察から黒色土面の畠と同走向のものが交差する走向のものを切っている状態が確認できた。これらも南部の畠と同様にサク間隔の距離は黒色土面の畠より狭く50cm程度のものが多かった。

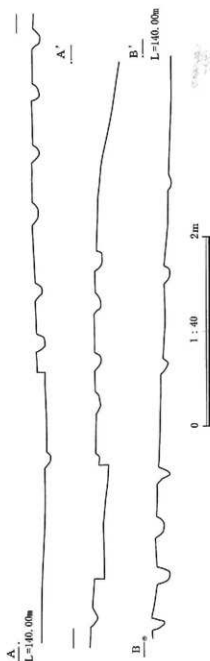
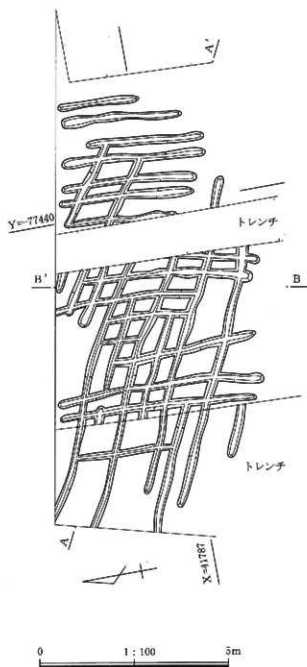
これらのサク痕跡は、最終的にF Aに覆われて残存した畠の畝たてが行われる以前に、同様に黒色土面より耕作が行われた際にサクの最深部がシルト面に達したために痕跡として残されたものと考えられる。



第19図 シルト面南部畠

$\frac{A}{L} = 10.233m$





第20図 シルト面北部

遺物観察表

【萬行遺跡】

泥流層上面

押出-番号 写真-番号	種 別 部 位	出土位置	計測値 ①内は推定	①胎 土 ②色 調	製作技法等の特徴	備 考
1-1 3-1	須恵器 羽釜	泥流上面1 号竈穴覆土		①砂粒多く粗い ②明赤褐色	内外面ともにクロコ調整	破片
1-2 3-2	須恵器 羽釜	泥流上面遺 構確認面		①砂粒多く粗い ②黄褐色	内外面ともにクロコ調整	破片

F A下

押出-番号 写真-番号	種 別 部 位	出土位置	計測値 ①内は推定	①胎土 ②色調	製作技法等の特徴	備 考
4-1 3-3	土師器 甕	泥流下E-1 グリッド	口径(12.4)	①砂粒多く粗い ②にぶい赤褐色	口縁部内外とも横ナデ 胴部外面縦ハゲ目内面 粗い横ハゲ目	破片 頸部1/5周 外面僅付着
4-2 3-4	土師器 坏	泥流下A-2 グリッド	口径(13.5)	①砂粒少 ②にぶい赤褐色	口縁部内外とも横ナデ 体部外面縦ナデ内面ナ デ後粗い放射状研磨	破片 口縁1/8周
4-3 3-5	土師器 坏	泥流下B-5 グリッド		①砂粒少 ②赤褐色	口縁部内外面とも横ナデ 体部外面縦ナデ内面 ナデ後左上りの放射状研磨	破片

【五反田遺跡】

泥流層上面

押出-番号 写真-番号	種 別 部 位	出土位置	計測値 ①内は推定	①胎 土 ②色 調	製作技法等の特徴	備 考
8-1 3-6	須恵器 坏	泥流上面A区 4号溝覆土	口径(11.6) 高3.0	①白色粒子を含む ②灰色	クロコ整形 底部回転ヘラ切 外面僅かに自然 釉がかかり、良く焼き締まっている	1/3残 口縁1/5周
8-2 3-7	須恵器 高台付碗	泥流上面A区 4号溝覆土		①白色粒子を含む ②灰白色	クロコ整形 底部回転糸切 付高台	破片 底部のみ1/2周
8-3 3-8	灰釉陶器 高台付碗	泥流上面A区 4号溝覆土		①均質でち密 ②灰白色	クロコ整形 付高台 内面に灰釉	破片 底部のみ1/3周
8-4 3-9	軟質陶器 坏	泥流上面A区 確認面	口径9.0 高1.6	①粒子細 ②浅黄色	クロコ整形 底部回転糸切	口縁一部に煤 付着(灯明皿)
8-5 3-10	軟質陶器 土鍋	泥流上面A区 4号溝覆土	口径(35.1)	①砂粒多 ②灰黄褐色	クロコ調整	破片 口縁 1/10周 外面 全体に煤付着
8-6 3-11	須恵器 羽釜	泥流上面A区 4号溝覆土	口径(22.0)	①砂粒多 ②浅黄色	クロコ調整	破片 口縁1/10周
— 3-12	青磁 劃文菱花皿	泥流上面B区 確認面		①ガラス化済み緻 密②胎明灰色 釉 基淡緑色	貫入	口縁部破片

泥流中間層

押出-番号 写真-番号	種 別 部 位	出土位置	計測値 ①内は推定	①胎 土 ②色 調	製作技法等の特徴	備 考
11-1 3-13	須恵器 坏	泥流中間層1号 溝覆土	口径(13.5) 高4.3	①白色粒子を含む ②灰白色	クロコ整形 底部回転糸切 付高台 高台内及び外面下部炭素吸着 焼結弱い	残1/6
11-2 3-14	須恵器 坏	泥流中間層1号 溝覆土	口径(10.0) 高4.1	①小気泡有 白色 ②灰白色	クロコ整形 底部回転糸切	残1/8
11-3 3-15	須恵器 坏	泥流中間層1号 溝覆土	口径(10.4) 高3.4	①ガラス質の熔融 による黒色底多数 ②灰白色	クロコ整形 底部回転糸切	残1/5
11-4 3-16	須恵器 高台坏	泥流中間層1号 溝覆土	口径(13.2)	①白色の針状鉱物を 含む 小炭多②灰色	クロコ整形 底部回転糸切	残1/4 高台剥落

図号-番号 写真-番号	種別 部位	出土位置	計測値 ①内は推定	胎土 ②色調	製作技法等の特徴	備考
11-5 3-17	須恵器 杯	泥流中層1号 溝瓦上		①粒子極めて細かい ②灰白色	ロクロ整形 底部回転糸切 焼結弱い	残1/5
11-6 3-18	須恵器 蓋	泥流中層1号 溝瓦上	口径(20.2) 高3.9	①ガラス質の熔融 による黒色斑有 ②灰白色	ロクロ整形 輪状つまみ貼り付け	残1/5
11-7 3-19	須恵器 杯	泥流中層1号 溝瓦上		①小漚を含む ②灰白色	ロクロ整形 底部回転糸切	底部のみ
11-8 3-21	須恵器 甕	泥流中層1号 溝瓦上		①白色粒子を含む ②灰白色	ロクロ調整 底部静止糸切 付高台 焼結弱い	底部のみ
11-9 3-20	須恵器 甕	泥流中層1号 溝瓦上		①白色粒子、白色の 針状結物を含む ②灰色	ロクロ調整	口縁部破片
11-10 3-22	土師器 甕	泥流中層1号 溝瓦上		①細砂粒を含む ②褐色	外面 頭部横ナデ 胴部へう削り	破片 外面煤付着
— 3-23	灰釉陶器	泥流中層1号 溝瓦上		①粒子極めて細い ②胎灰色 釉淡緑 褐色	ロクロ整形 内外面薄い灰釉 細かい貫入	破片
11-11 —	須恵器 甕	泥流中層1号 溝瓦上		①白色粒子を含む ②灰色	外面平行叩き 内面同心円状アテ具痕の上に平 行アテ具痕 焼結弱い	胴部破片
11-12 —	須恵器 甕	泥流中層1号 溝瓦上		①白色粒子を多量 に含む②灰色	内面ロクロ調整 焼結弱い	胴部破片 外面摩滅
11-13 —	須恵器 甕	泥流中層1号 溝瓦上		①白色粒子を含む ②灰白色	外面平行叩き 内面同心円状アテ具痕	胴部破片 外面摩滅
11-14 —	須恵器 甕	泥流中層1号 溝瓦上		①白色粒子を多量 に含む②灰色	外面平行叩き 内面同心円状アテ具痕 外面に薄い自然釉	胴部破片
11-15 —	須恵器 甕	泥流中層1号 溝瓦上		①白色粒子を多量 に含む②灰色	外面平行叩き 内面同心円状アテ具痕	胴部破片

F A 下 1 号土器集積

図号-番号 写真-番号	種別 部位	出土位置	計測値 ①内は推定	胎土 ②色調	製作技法等の特徴	備考
16-1 4-1	土師器 杯	1号土器集積	口径14.8 高5.1	①粗砂粒を含む ②にぶい褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中下位ナデ、底部へう削り、 内面口縁部横ナデ、上半斜放射状へう磨き。	口縁の一部欠 ほぼ定形
16-2 4-2	土師器 杯	1号土器集積	口径14.2 高5.3	①細砂粒を含む ②にぶい褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中下位ナデ、底部へう削り、 内面口縁部横ナデ、上～下位斜放射状へう磨き。	残8/10
16-3 4-3	土師器 杯	1号土器集積	口径14.8 高5.1	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中下位ナデ、底部へう削り、 内面口縁部横ナデ、上半斜放射状へう磨き。	残7/10
16-4 4-4	土師器 杯	1号土器集積	口径15.6 高6.8	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部へう削り、 内面口縁部横ナデ、上～中位斜放射状へう磨き。	口縁の一部欠 ほぼ定形
16-5 4-5	土師器 杯	1号土器集積	口径13.5 高5.3	①粗砂粒を含む ②褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中下位ナデ、底部へう削り、 内面口縁部横ナデ、上～中位斜放射状へう磨き。	残7/10
16-6 4-6	土師器 杯	1号土器集積	口径14.2 高5.3	①粗砂粒を含む ②にぶい褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中下位ナデ、底部へう削り、 内面口縁部横ナデ、上～下位斜放射状へう磨き。	体部の一部欠 ほぼ定形
16-7 4-7	土師器 杯	1号土器集積	口径14.0 高5.3	①石英の多い粗砂 粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部へう削り、 内面口縁部横ナデ、中位斜放射状へう磨き。	残6/10
16-8 4-8	土師器 杯	1号土器集積	口径14.6 高5.3	①粗砂粒を含む ②外にぶい赤褐色 内黒色	口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部へう削り、 内面口縁部横ナデ、上～中位斜放射状へう磨き。	残7/10
16-9 4-9	土師器 杯	1号土器集積	口径(14.4) 高5.1	①粗砂粒を含む ②外にぶい赤褐色 内黒色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部へう削り、 内面口縁部横ナデ、上～下位斜放射状へう磨き、底部 横ナデ	残5/10
16-10 4-10	土師器 杯	1号土器集積	口径(14.0)	①細砂粒を含む ②赤褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、 内面口縁部横ナデ、上～中位斜放射状へう磨き	残3/10

押図番号 写真番号	種別 部位	出土位置	計測値 ①内は推定	①胎土 ②色調	製作技法等の特徴	備考
16-11 4-11	土師器 坏	1号土器集積	口径11.4 高5.3	①粗砂粒を含む ②褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ、中位斜放射状ヘラ磨き、底部横ナデ。	完形
16-12 4-12	土師器 坏	1号土器集積	口径12.6 高5.4	①粗砂粒を含む ②褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面上半斜放射状ヘラ磨き。	口縁部一部欠 ほぼ完形
16-13 4-13	土師器 坏	1号土器集積	口径12.6 高6.2	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ後上半斜放射状ヘラ磨き。	底部一部欠 ほぼ完形
16-14 4-14	土師器 坏	1号土器集積	口径12.7 高6.0	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ後上半斜放射状ヘラ磨き。	残7/10
16-15 4-15	土師器 坏	1号土器集積	口径(12.4) 高(5.9)	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ、中位横位ヘラ磨き。	残3/10
16-16 4-16	土師器 鉢	1号土器集積	口径(10.5) 高5.9	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ後上半横位ヘラ磨き、底部横ナデ。	残3/10
16-17 4-17	土師器 鉢	1号土器集積	口径10.6 高6.3	①暗赤色球状の粒 子を含む ②にぶい赤褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ後上～中位斜放射状ヘラ磨きとその下端に横位ヘラ磨き、底部横ナデ。	口縁部一部欠 ほぼ完形
16-18 4-18	土師器 小型甕	1号土器集積	口径11.4 高9.1	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部～上位横ナデ、胴中位～底部ヘラ削り、内面口縁部～胴上部横ナデ、胴中位以下ナデ。	一部欠ほぼ完 形
16-19 4-19	土師器 高坏	1号土器集積	口径14.2 高9.2	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部横ナデ、坏部中位ナデ、下位ヘラナデ、脚部横ナデ、坏部内面横ナデ。	残8/10
16-20 4-20	土師器 高坏	1号土器集積	口径9.0 高8.0	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	外面坏部上半横ナデ、下半ヘラナデ、脚部横ナデ、内面坏部上半斜放射状ヘラ磨き、下半横ナデ。	残8/10
16-21 4-21	土師器 高坏	1号土器集積	口径15.0	①砂粒を多く含む ②褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、下位ヘラナデ、内面口縁部～中位横ナデ後斜放射状ヘラ磨き。	脚部欠
16-22 4-22	土師器 高坏	1号土器集積	口径14.8 高8.7	①粗砂粒を含む ②外明褐色 内黒色	外面坏部口縁部横ナデ、中位ナデ、下位ヘラナデ、脚部横ナデ、坏部内面横ナデ後斜放射状ヘラ磨き、脚部内面横ナデ。	残9/10
16-23 4-23	土師器 高坏	1号土器集積		①粗砂粒を含む ②明赤褐色	外面坏部下部ナデ、脚部縦ヘラ磨き、脚部内面ヘラ削り。	脚部と坏部最 下部のみ
16-24 4-24	土師器 埴	1号土器集積		①粗砂粒、暗赤色粒 子を含む②明赤褐色	外面体部上半横ナデ、下半ナデ、底面ヘラ削り、内面底面ヘラナデ。	残体部の5/10
16-25 4-25	土師器 甕	1号土器集積	胴径21.2 残高15.0	①粗砂粒を含む②外 明赤褐色 内黒灰色	外面胴上半ナデ後斜放射状ヘラ磨き、胴下半ヘラ削り、底面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	残胴部の9/10

F A 下 2 号土器集積

押図番号 写真番号	種別 部位	出土位置	計測値 ①内は推定	①胎土 ②色調	製作技法等の特徴	備考
17-1 5-1	土師器 坏	2号土器集積	口径13.8 高5.2	①粗砂粒を含む ②にぶい褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ、上半に斜放射状ヘラ磨き。	一部欠ほぼ完 形
押図番号 写真番号	種別 部位	出土位置	計測値 ①内は推定	①胎土 ②色調	製作技法等の特徴	備考
17-2 5-2	土師器 坏	2号土器集積	口径13.3 高4.6	①暗赤色粒子、粗砂 粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ、中上位斜放射状ヘラ磨き。	残7/10
17-3 5-3	土師器 坏	2号土器集積	口径13.8 高4.9	①暗赤色粒子、粗砂 粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ、上～下位斜放射状ヘラ磨き。	残8/10
17-4 5-4	土師器 坏	2号土器集積	口径11.5 高5.3	①暗赤色粒子、粗砂 粒を含む②褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ。	残7/10
17-5 5-5	土師器 鉢	2号土器集積	口径(10.0) 高5.9	①細砂粒を含む ②にぶい褐色	外面口縁部横ナデ、中位ナデ、底部ヘラ削り、内面口縁部横ナデ、中上位斜放射状ヘラ磨き。	残3/10
17-6 5-6	土師器 高坏	2号土器集積	口径(16.6)	①細砂粒を含む②外 明赤褐色 内黒色	外面坏部上半横ナデ、下半ナデ、脚部横ナデ、脚部ヘラナデ、内面口縁部～上半横ナデ後斜放射状ヘラ磨き。	残5/10
17-7 5-7	土師器 高坏	2号土器集積	口径(13.9)	①粗砂粒を含む ②にぶい赤褐色	外面口縁部横ナデ、大部ヘラナデ、内面口縁部横ナデ後上半部斜放射状ヘラ磨き。	坏部残6/10

F A下3号土器集積

押図・番号 写真・番号	種 別 部 位	出土位置	計測値 0内は推定	①胎 土 ②色 調	製作技法等の特徴	備 考
17-8 5-8	土師器 埴	3号土器集積	口径7.6 胴径13.8 高11.4	①砂粒を含む②外 明赤褐色 内黒色	外面口縁部横ナデ後斜射状へう磨き、胴上位口縁部 と逆位の斜射状へう磨き、胴中位～底部へう磨り、内 面口縁部横ナデ後斜射状へう磨き、胴部へうナデ。	残9/10
17-9 5-9	土師器 埴	3号土器集積	口径10.2 胴径15.6 高15.6	①粗砂粒を含む ②褐色	外面口縁部横ナデ後斜射状へう磨き、胴上半斜射 状へう磨き、胴中位～底部へう磨り、内面口縁部 横ナデ後斜射状へう磨き、胴部へうナデ。	残8/10
17-10 5-10	土師器 高坏	3号土器集積	口径14.5 胴径11.1 高9.8	①暗赤色粒・粗砂 粒を含む ②褐色	口縁部～坏部上部横ナデ、中位ナデ、下部へうナデ、 胴部横ナデ、内面口縁部横ナデ、体部へうナデ、脚部 横ナデ。	残8/10
17-11 5-11	土師器 高坏	3号土器集積	胴径(10.6)	①粗砂粒を含む② 外明赤褐色 内褐色 ③暗赤色粒子、粗砂 粒を含む④褐色	坏部内外面ナデ、脚部内外面横ナデ。	脚部残5/10
17-12 5-12	土師器 鉢	3号土器集積	口径7.6 高5.4	①粗砂粒を含む② 褐色	外面口縁部横ナデ、体部ナデ、底部へう磨り、内面 横ナデ。	口縁部一部欠 ほぼ完形

F A下炭化土器集積

押図・番号 写真・番号	種 別 部 位	出土位置	計測値 0内は推定	①胎 土 ②色 調	製作技法等の特徴	備 考
17-13 5-13	須恵系 甕	炭化土器集積	胴径9.9 残高9.0	①白色粒子を含む ②灰色	外面口縁部15本の磨面による波状文、胴部中上位 回転によるへうナデ、下位～底部へう磨り、胴部中 位にカキメ、内面胴中位以上口ロ口調整。外面肩部 と口縁部内面に降灰による濃緑色の自然釉。	口縁部端部欠 8/10底部焼成 後穿孔

F A下黒色土内

押図・番号 写真・番号	種 別 部 位	出土位置	計測値 0内は推定	①胎 土 ②色 調	製作技法等の特徴	備 考
17-14 5-14	土師器 坏	中央低地部	径13.3 高4.4	①粗砂粒を多量に 含む②褐色	外面口縁部横ナデ、上部ナデ、下部へう磨り、内面 口縁部横ナデ、中上位に斜射状へう磨き。	底部の一部欠 ほぼ完形
17-15 5-15	土師器 坏	中央低地部	口径(11.2) 高5.6	①粗砂粒を含む ②褐色	外面口縁部～上位横ナデ、中位ナデ、底部へう磨 り、内面上半横ナデ後斜射状へう磨き。	残5/10
17-16 5-16	土師器 坏	FA下黒色土 面調査区南部	口径(10.2) 高6.1	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部横ナデ、上～下位ナデ、底部へう磨り、 内面上半斜射状へう磨き。	残5/10
17-17 5-17	土師器 鉢	北部品南	口径10.8 高7.1	①暗赤色粒子、粗砂 粒を含む ②褐色	外面口縁部～体部上位横ナデ、中位ナデ、中位～ 底部へう磨り、内面口縁部横ナデ、体部上位～中 位斜射状へう磨き。	残9/10
17-18 5-19	土師器 高坏	中央低地部	口径14.2 胴径(10.1) 高9.3	①暗赤色粒子、粗砂 粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部～坏部上位横ナデ、坏部中位ナデ、坏部 下位～脚部上位へうナデ、脚部下半横ナデ、内面坏 部横ナデ、脚部下位横ナデ、脚部上位へうナデ。	残8/10
17-19 6-1	土師器 高坏	南部品南	口径15.6	①粗砂粒を含む ②明赤褐色	外面口縁部横ナデ、坏部上位～脚接合部ハケメ、 坏部屈曲部ナデ、脚部へうナデ、内面坏上半横ナ デ、下半ハケメ、脚部下横ナデ、脚部上へうナデ。	残6/10
17-20 5-18	土師器 高坏	中央低地部	胴径(10.6)	①粗砂粒を含む ②にぶい赤褐色 坏内面黒色	外面残存部へうナデ、脚部横ナデ、脚内面横ナ デ。	脚部残7/10
18-1 6-2	土師器 高坏	南部品南	胴径(14.2)	①粗砂粒を含む ②褐色	外面坏部へうナデ、脚部ナデ、脚部横ナデ、内面 坏部ハケメ、脚部へうナデ、脚部横ナデ。	脚部残4/10
18-2 6-3	土師器 埴	中央低地部	胴径13.9	①粗砂粒を含む ②にぶい褐色	外面胴上半ナデ、下半へう磨り、内面肩部にしぼ り痕、中～下位へうナデ。	胴部残5/10
18-3 6-4	土師器 埴	南部品南	胴径11.6	①粗砂粒を含む ②にぶい赤褐色	外面胴上半ハケメ、下半へう磨り、内面上半ユビ ナデ、下部ハケメ。	胴部残6/10
18-4 6-5	土師器 甕	北部品東の 段下	底径6.4	①粗砂粒を含む ②褐色	外面ナデ、底部へう磨り、内面へうナデ、粘土接合 痕あり。	底部破片 外 面炭化物付着
18-5 6-6	土師器 甕	南部品南	底径6.8	①白色粒子、暗赤色 粒子、粗砂粒を含む	外面胴部・底面へう磨り、内面残存部上半へう磨 り、下半ハケメ。	底部のみ



萬行遺跡 1 号堅穴



萬行遺跡 1, 2, 3 号土坑



萬行遺跡泥流層下島



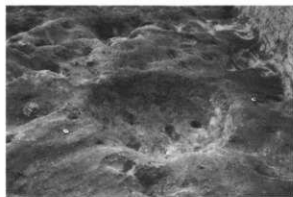
五反田遺跡泥流上面 4 号溝



五反田遺跡泥流上面 5 号溝



五反田遺跡 1 号土坑



五反田遺跡 2 号土坑



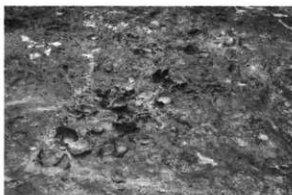
五反田遺跡 D 区耕具痕



五反田遺跡F A下畠と道路（南部）



五反田遺跡F A下畠と道路（北部）



五反田遺跡F A下1号土器集積



五反田遺跡F A下2号土器集積



五反田遺跡F A下3号土器集積



五反田遺跡F A下炭化木材と須恵器★

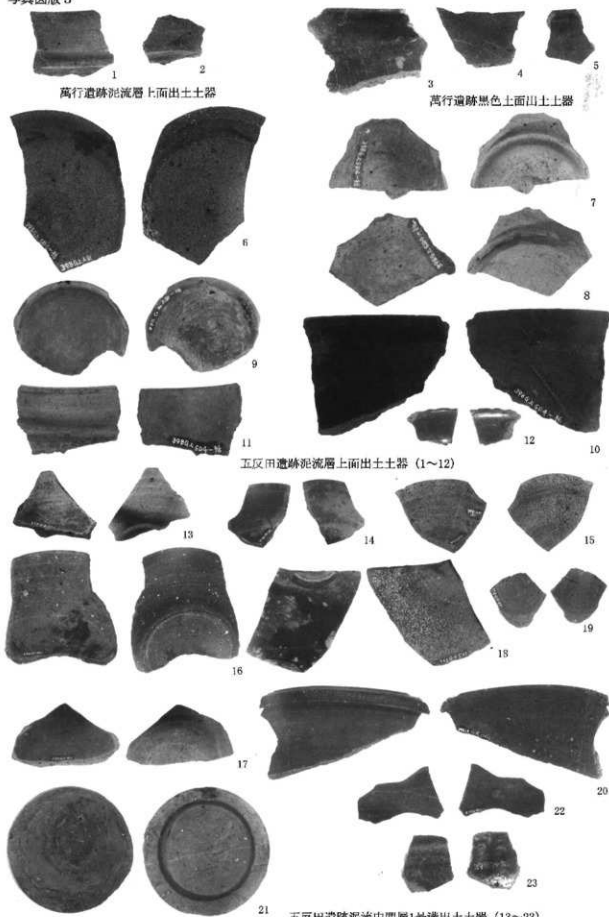


五反田遺跡シルト面畠（南部）



五反田遺跡シルト面畠（北部）

写真図版 3



萬行遺跡泥流層上面出土土器

萬行遺跡黑色土面出土土器

五反田遺跡泥流層上面出土土器 (1~12)

五反田遺跡泥流中間層1号清出土土器 (13~23)

写真図版 4



1号土器集積出土遺物



1



2



3



4



5



6



7

2号土器集積出土土器 (1~7)



8



9



10



11

3号土器集積出土土器 (8~12)



12



炭化材集積付近出土須恵器 (13)



14



15



16



17



18



19



20



21

その他地点出土遺物 (14~19)

写真図版 6



その他地点出土遺物

ふりがな	しもしばごたんだいせき しもしばまんぎょういせき
書名	下芝五反田遺跡・下芝萬行遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第230集
編集者	飯島 克巳
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8051 群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	平成20年11月30日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
しもしばごたんだ	くまげんたかさきしきとまち	10202	398	36°22'36"	138°58'1"	20070213 ～20070331	635㎡	高圧送電線 鉄塔建設
下芝五反田	群馬県高崎市箕郷町					20071120 ～20080111		
しもしばまんぎょう	くまげんたかさきしきとまち	10202	398	36°22'44"	138°58'5"	20070213 ～20070331	187㎡	高圧送電線 鉄塔建設
下芝萬行	群馬県高崎市箕郷町					20070417 ～20070521		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下芝五反田	生産	古墳	畠	土師器小片	古墳時代の泥流で埋没した畠、道路、土器集積遺構、平安時代の水路、中世と思われる耕具痕を検出。
	祭祀		土器集積	土師器	
	生産	平安	水路	土師器・須恵器	
	生産	中世か	耕具痕		
下芝萬行	生産	古墳	畠	土師器小片	古墳時代の泥流で埋没した畠を検出。
	その他	平安	竪穴	須恵器小片	
		不明	土坑		

高崎市文化財調査報告書第230集
下芝五反田遺跡・下芝萬行遺跡

平成20年11月30日 印刷

平成20年11月30日 発行

編集 高崎市教育委員会

発行 高崎市教育委員会

印刷 有限会社 様輝(はるき)